

平成24年4月2日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成24年3月25日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

経済産業大臣 枝野 幸男（事故当時は内閣官房長官）

2 聴取日時

平成24年3月25日午後2時00分から同日午後6時00分まで

3 聴取場所

枝野議員事務所（衆議院第一議員会館804号室）

4 聴取者

柳田委員長代理、高野委員、高嶋参事官、加藤参事官補佐、
飯崎参事官補佐、三田主査、仁保主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故対応全般について

第3 特記事項

■下線部については、先方から、特に強い非開示の要望があった。

■本文において①～⑥として言及される避難指示は以下のとおり。

①1Fから半径3km圏内の避難指示（3/11 21:23）

②1Fから半径10km圏内の避難の指示（3/12 5:44）

③2Fから半径3km圏内の避難の指示（3/12 7:45）

④2Fから半径10km圏内の避難の指示（3/12 17:39）

⑤1Fから半径20km圏内の避難の指示（3/12 18:25）

⑥1Fから半径20～30km圏内の屋内退避の指示（3/15 11:00）

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 あらかじめ質問事項を送らせていただいておりますので、1番目の初動対応等についてというところからお聞きしたいんですが、2以下は各論的な話でして、初動対応は、我々もいろいろヒアリングで聞いているところなのですけれども、どうしても外に見えない部分で、大臣しかわからない部分もあると思いますので、ざっと11日～15日ぐらいまでの経過を簡単に、どこにいらっしやっただとか、どういうことがあったという流れを教えてくださいと思います。

○枝野前官房長官 個別に聞かれるということではなくてね。

○質問者 はい。

○枝野前官房長官 わかりました。

まず、私は余り記憶力がよくないので、正直に言って詳細な時刻あるいは順番とかも、余り自信がないところがたくさんあります。自信がないところは自信がないと言いますし、自信があるところは自信があると言います。

まず初日で、緊急事態宣言の発出ということで質問事項をいただいているんですが、私自身が原発の方がメインだなと思ったこと自体、あえて言えば、12日の未明でベントができてないというのでたたき起こされたときかなと思っていまして、実は11日の緊急事態宣言発出のプロセスとかということの記憶は余りありません。勿論出していることはわかっていまして、全閣僚に準ずるぐらいのメンバーで原災本部を開催した記憶はありますが、当時そこに余りコミットしていた記憶は余りありません。

それから、民間事故調とか政府事故調のものもそうだったかな。初日の、例えば地下の危機管理センターの中2階のミーティングとか、多分私は入ってなかったのではないかなと思うんです。最初に行ったのが12日の未明の朝、ベントができてないと起こされたからではなかったか。これは正確な記憶ではないですが、少なくともそれより前の段階のときは印象がありません。

逆に言うと、12日の未明、多分5時とか6時ぐらい、総理が出発する直前ぐらいのところで中2階に行ったときに、本当に全く電話が通じないんだとか、[REDACTED]話をした明確な記憶がありますので、まさに公表されている事態をたどるぐらいの記憶と認識が正直なところですよ。

むしろ初日は、例えば16時台とか、私は帰宅難民対策をやっていました。むしろ地下の危機管理センターで、国土交通省にどうなっているんだとどなっていました。いつになったら鉄道が動くのか、動かないのか、情報を早く集めろと言ってやっていたし、たまたまJRの社長と電話がつながって無理だと聞いたので、すぐに記者会見をやって、帰らないでくれとやったのが15時半ぐらいだと思います。

勿論、危機管理センターにいましたから、両方で大変なことが起こっているというのは認識していましたが、あえて言えば、地震・津波は平野さんで、原発は海江田さんという所管大臣がいましたから、官房長官としては常に全体を見てなければいけないという意識だったので、個別のことについての強い印象は余りありません。

【取扱い厳重注意】

あと、あるとすれば電源車の話でごちゃごちゃしていて、こんなものは余ってもいいから、あらゆるところから全部集めるしかないのではないかみたいな話を、原発関連で集まっているところではなくて、地下の危機管理センターで、危機管理監などと激しくいろいろなことを言っていたのは明確に記憶がありますし、そのプロセスで、着いたのにコードがつかないみたいなばかなことを言っているという話で、何だそれはと言って、保安院のリエゾン、今から考えると平岡次長だったのかな。報告が要領を得ないものばかりで、どうなっているんだというのを2、3度言った記憶があるというのが初日です。

こんな感じで、どんどん時系列的に言っているんですか。

○質問者 はい。

○質問者 御自身でメモをつくるとか、ノートをするとか、そういう習慣はない。

○枝野前官房長官 全くありません。普段からメモをとらない人間だし、普段から余り記憶しないものでいっぱいです。

12日は、ベントは重要なことだから、最終的にベントをやりますと東電と保安院が言ってきて、場所の記憶はありませんが、それを決断するときは、確かに言ったのは間違いなくて、これは主務大臣が役所でやるだけではなくて、官邸でも会見をやった方がいいということになったので、ベントをするということについて私も会見をしました。

最初に深くコミットしたというよりは、3キロの避難の時だったと思いますが、3キロの避難をせざるを得ない状態、多分、冷却停止が原因だったと思いますが、これは単なる経産省、保安院の問題ではないね、官邸からも会見しなければいけないねということで会見をして、ベントするということ。

ただ、主体はだれなんだという話になって、主体は東電ですと。東電について了解するのは保安院ですと。では、海江田さんが先にやって、5分遅れで官邸がやりましょうというのは非常に記憶に残っていて、保安院での海江田さんの会見が始まったのを確認して、私の会見をスタートさせました。

これでベントがされて、電源車が次々に着いているんだから、電源が確保されれば原発の方はこれで何とか収まるなというのが、そのときの正直な私の思いでした。

ところが、朝、正確な時間はわかっていませんが、官房長官の執務室で、あのときはまだソファーでもなかったと思います。普通のデスクのいすで、うとうとしていたら福山さんか、秘書官か、ただ、すぐに福山さんが入ってきて、まだベントができてないと。何だそれ、何が起きているんだという話で、それで初めてか、少なくとも明確に記憶をしている意味では初めて地下の中2階のところに行ったら、海江田さんと、今、思うとだれだったんだろう。武藤さんか。とかがいて、海江田さんが東電に対して、何でできないという話をして、幾ら聞いてもらちが明かないんだというやりとりがあったということです。

総理が行って、この質問事項のメモで言うと、12日の1号機の爆発時ですが、たしか1号機の爆発のときは党首会談か何かだったのかな。

○質問者 そうです。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 党首会談は、平時なら官房長官は陪席ですが、私は多分陪席してなかったのかな。そこは記憶が明確でないんですが、多分してないのではないかと思います。党首会談で陪席をしていた記憶はそんなにない。

○質問者 中村秘書官が入っていたという話。

○枝野前官房長官 入っていたということは、私は入っているな。

○質問者 外にいたと。

○質問者 外にいたという話。何か、いたかのような話。

○質問者 4階で行われています。

○質問者 4階ですね。

そうすると、爆発を最初に認識されたのはどこにいらっしゃったときかという記憶はありますか。

○枝野前官房長官 少なくとも1号機の爆発問題のことに関する記憶は、ほとんど地下の危機管理センター。地下の危機管理センターで、
どこからも何も情報が入ってこないというので、さすがにいらついて、どうなっているんだと。

たしか警察からは、最初に爆発か、爆発に類するような情報が入り、それが取り消されなんていうのがプロセスであったと。それで何なんだという話を、地下で伊藤さんなんかとやりとりをした記憶は明確に鮮明にあるんです。

あと、これについて明確な記憶があるのは、定例の記者会見。あの期間は基本的に定例どころではないんですが、基本的には10時台と4時台というのが官房長官の定例会見で、夕方4時台ができてなくて、情報が集まったらやらなければと言いながら全く情報がない中で、さすがにこれ以上引っ張ったらやばいねという話を福山さんとして、かといって、あの映像以外に何もわからない状態で。

あと一つわかっていたのは、多分サイトの境界線の線量の情報だけはその後も定期的に入ってきていて、これがべらぼうに変な数字にならずに、むしろ下がったのかな。一瞬上がって下がったぐらいの数字だったので、要するに、チェルノブイリ型の爆発みたいなことではあり得ない話だねと。

では、もうとにかくこの2つの情報だけで、とにかく政府もあの映像は見ています、一生懸命に情報収集をしていますという姿勢だけでも示さなければまずいのではないかとということで記者会見をしたという状況ですね。

それから、海水注入はちょうど私の記者会見のときです。どこかの新聞が書いて、その後、国会で問題になった、勝手にそんたくしてとめてしまったみたいな話のやりとりは、ほとんどわかりません。少なくとも私自身は、東電がそんたくをしたと思われる6時台ぐらいの会合には出てなかったか、出ていたとしても、会見が終わって、総理のところ集まって何かをやっているというので最後に飛び込んだぐらいだと思うので、少なくとも強い印象というか、記憶は残っていません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 当時の時系列に照らしますと、午後の記者会見が17時47分～18時20分です。ちょうどこの記者会見の最中に、海水注水の話が始まっていたと我々は聞いておりまして、最終的に海水注入しようとするのは、7時半に再開した会議。それが30分ぐらいにあったようですけれども、中断の後、最後はそこで決まるんです。時間的には長官が入れる時間帯にはなってきたはいるんですけども、記憶としてはいかがでしょうか。

○枝野前官房長官 記憶に残っているのは、海水注水の話は、いつからかは別としてある段階から、真水がなかったら海水を入れるしかないねと。それに対して東電が、それだと使えなくなるから嫌だとか、そういったネガティブな話はなかったと。確かにどこかで水を入れたら再臨界のリスクがあるから、ホウ酸かな、ホウ素かな、一緒に入れなければならないという話があったことは記憶にあります。

○質問者 わかりました。

後半の、最後に入れましょうという話が決まったところの記憶も余りはっきりしない。

○枝野前官房長官 そうですね。

○質問者 ましてや場所がどこだったかというのもないですね。

○枝野前官房長官 全くないですね。

○質問者 その辺りで、■■■■さんとか、そういう専門の方が同席したり、何か口を出したりということはなかったですか。

○枝野前官房長官 本当に次々といろいろなことが起こっていて、なおかつ、私はこの間に津波対応もやっていたので、どの場でどの話をしていたのか、明確なところもあるんですが、ほとんどのところは、ここでこれをやっているから官房長官も入っていてくれとか、そんな話で入って、自分がそこで問題意識を持って発言したりしたのは勿論記憶にあるんですが、海水注水の話は異論なくというか、スムーズにというか、すっと行った記憶と、再臨界をとめるにはホウ酸が役に立つんだという新しい知識だったので、その話だけが残っているだけです。

○質問者 3月12日の未明に、原発がメインの話になりましたけれども、客観的には11日に冷却の問題が起きてきて15条発生とか、客観的にはかなりシビアな状況が来ているんですけども、当時長官としては、そんなにシビアな状況だという情報とか認識というのは余りなかったんですか。

○枝野前官房長官 何をもってシビアと言うべきかなんですが、原発の電源がとまったこと自体が、過去の日本の原発の歴史から比べれば大変なことであるのは、さすがに私もわかっていましたし、まして冷却がとまったというのは、とまったままで継続したら大変なことになるというのは、勿論わかっていました。

ただ、少なくとも11日の間の危機管理センターとか官房長官室に来ている情報は、冷却がとまってしまったけれども、回復の努力をしているので回復できそうだと、つまりポジティブな情報なんです。にもかかわらず、電源車が着きながら、なぜか電源が繋がらない。なぜなのかもよくわからない状態が続き、コードが合わないとかという初歩的な話が

【取扱い厳重注意】

出てきて、だんだん大丈夫かというのは認識をしていきましたが、ベントをして圧力を抜けば爆発しないということで、だからベントをやらせてくれと。その判断は大変な判断だった。つまり放射線物質を意図的に外に出すと。だけれども、爆発させてしまったら大変なことになるんだから、それはしようがないねと。

それを東電はすぐにできるという認識で、多分東電は外に向かっても明言しているのではないですか。海江田さんが3時にやった会見か何かのときに、東電なのか、保安院なのか、やればすぐにできますみたいなことを言っていたというのは記憶がありますので、それができれば少なくとも爆発はしないんだなということだったので、おいおい電源車も着き、電源が回復されて、爆発しそうなことについてはベントで圧力が抜ければ冷却も回復するんだなというのが、3時の会見ぐらいまでの認識でしたね。

○質問者 専門家の、例えば保安院の次長の平岡さんなどからお聞きすると、長官が今後プラントはどうなるんだという質問をされているような場面もあるように聞いているんです。

○枝野前官房長官 私が、11日に。

○質問者 班目さんとか。

○枝野前官房長官 そんな場面自体があったかな。

平岡さんなら危機管理センターで、電源車を何台集めればいいのか、何でつながらないんだとか、電源車だけでいいのかとか、そういう話は危機管理センターの大きなテーブルで、各省も全部がいるところでやりとりして。でも、あの人は幾ら言ってもらちが明かないのはすぐにわかったの、あの人は、急げ急げとだけはいろいろなことを言いましたけれども、とにかく聞いてもしようがないから。

勿論、このままで大丈夫なのかという話はしてないわけではないです。当時、私が全く原子力の素人でも、冷却ができなかったら爆発したり大変なことになるのではないか、大丈夫かみたいなことは言ったと思いますが、細かく詰めた記憶はないですね。

○質問者 先ほど話の流れの中で、3キロメートルの避難の話がございましたけれども、3キロメートルの避難は11日の9時20分ごろに出ておりまして、それに先立って実質的な検討があったと思われるんですが、長官はその中に入られていましたか。

○枝野前官房長官 記憶がないです。発表しているのが私なので、入ってないとおかしいとは思いますが。自分が入らないところで決まったことの発表だけをしてくれという話は、基本的にあり得ないので入っていたのは間違いないと思いますが、余り記憶がないということは、特段議論がなかったと思います。つまり冷却がとまって15条ということは、そのままの状態が続けば、放射能漏れであったり最悪は爆発だということは、専門家でもすぐにはわかりましたから避難をしなければならない。

そのときは経産大臣でなかったので知りませんでした。3.11以前のマニュアルでも、そういった場合はまず3キロを逃がしておくということが基本だったみたいですから、そういう話に基づいて流れの中で決まったんだと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 ちょっと話を戻っていただきまして、再臨界の話はどうか。

○枝野前官房長官 再臨界のリスクがあるからホウ酸を入れなければいけないという話は、どこかで出たのは間違いないです。ただ、それが12日の夕方の話なのか、それより前の話なのかはちょっと記憶がないです。

これだと14日の3号機爆発なんですけど、3号機爆発は会見中にメモが入ってきたんです。だから、これは鮮明です。会見をしていたら、3号機で煙が上がっているという情報がありますがと記者から聞かれて、その時点で把握してなかったら、秘書官の方々がメモを入れてくれて、申し訳ないけれども事実を確認するのでと記者に言って、記者会見を一旦やめて、同じような状況なので今度は水素爆発だと。周辺線量の情報だけをとって、水素爆発と思われるということで、ここは結構早めに会見、発表ができたと思っています。

○質問者 3号機の水素爆発は14日の10時ごろなんですけど、この前日の日曜日から月曜日にかけて、計画停電の関係の調整で非常に忙しい状態でいらっしゃったと聞いておりました。14日の朝の5時56分の記者会見のときに、計画停電の話はずっとされている。このときに、実は1Fでは3号機が非常に危ない状態というか、不安定な状態になってきて、ドライウエルの圧力も上がってきていて、どうしたものかという話なんですけれども、14日の朝に、そういう情報に接した御記憶はないですね。

○枝野前官房長官 情報に接していれば、会見で言っていると思います。

○質問者 ないんです。朝5時、6時の記者会見の後、11時直前の10時56分に始まる記者会見の間は何もなかったですね。

○枝野前官房長官 その10時56分で言ってなければ、多分ないと思います。爆発の直前、つまり爆発と同時並行の会見でそういう情報があれば、そこで言っていると思います。

○質問者 10時56分では、危ない状態になって一度退避したけれども、その後にもまた戻りましたというところまでを話している。

○枝野前官房長官 それを言っているわけですか。

○質問者 その最中に爆発が起きている。

○枝野前官房長官 ということは圧力が高まって、近くにいたらまずいから一旦引いて、戻ったという情報の限りであったということではないですか。

○質問者 わかりました。

長官としては、この直前の発表前に情報が入ったということなんでしょうね。

○枝野前官房長官 明確な記憶ではないんですが、一旦圧力が高まって、重要免震棟か何かに逃げたんでしょうね。戻ったということは圧力が下がったのかな。

○質問者 若干。

○枝野前官房長官 というやりとりがあれば、ファクト自体はそろそろ入っているのではないですか。その会見で言っているということは、会見の直前になって、4時間も5時間も前にこんなことがありましたということの報告だったら、その時点でまた、何をやっているんだ、早く言えと言っていたと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 当時の長官の記者会見内容を見ますと、朝の早い時間帯に圧力が上がって、一時退避したんだと。この会見に来る直前にもう一度確認したら、その退避は既に解除されていたことを確認いたしましたという発表になっていました。

○枝野前官房長官 だから、退避したことについてはまさに早い段階で入っていたんでしょうね。戻りましたという話は、あれはどうなっているんだと。つまり、悪いファクトは早く入れろという話でしたけれども、戻りましたという話は、その後どうなっているんだと直前に聞いています。その会見のとおりだと思います。

○質問者 わかりました。

11時の爆発で、記者会見を中断したということですね。

○枝野前官房長官 はい。

2つの爆発が重要なファクトとして出ているんですが、後から思うと、住民被害というか、環境被害が一番大きかったのは2号機のサブプレッションプールではないですか。放射線量は一番出たのはあのときではないかと私は勝手に思い込んでいたんですけど、違うんですか。

○質問者 まず15日の午前中に大きく上がって、15日の23時ごろ、夜に更にもっと大きく上がっているという2つの山が15日にある、それが2号機である可能性も当然ありますし、3号機についても更に炉心の損傷が進んで、FPが出ていったという可能性もあって。

○枝野前官房長官 それはどっちかがわからないわけですか。

○質問者 はい。

○枝野前官房長官 1や3の爆発のときは、上がったのはそんなに大きくなかったですね。勿論そのときはわかりませんでしたけれども、その後、2のサブプレッションプールの破損のときの上がり方が大きい。だから、ここなかなという問題意識の割には世の中が余り注目してなくて、何でなかと思っているんです。3の可能性もあるわけですね。爆発的な特別の事件があったわけではないけれども、じわじわと出ていったものがどっと出た。

○質問者 はい。

○質問者 恐らくその疑問は、爆発の直後は1、3とも線量が下がっている。まだ爆発かどうかは確認できてないんですけども、2号機の爆発的な音の事象の後には、線量が上がっているという問題ですね。

○枝野前官房長官 そういう問題意識と、結局一番高かったのは15日であること。15日が圧倒的に高いみたいですね。

だから、自分の反省からも、あの15日のサブプレッションプールの破損については、重大ではあるんだけど、その時点では水素爆発と比べれば、相対的には重要度が低いと思っていましたので、あのときにもっと認識すべきだったかなという反省はあります。

○質問者 ただ、ベントは1～3ともずっと継続的にやっているから、炉心の状況に応じて。

○枝野前官房長官 そこから出る量が、どんどん増えていることはあり得るわけですね。

【取扱い厳重注意】

○質問者 1、3であってもですね。

○枝野前官房長官 はい。

オフサイトセンターのことは、結果だけ報告されているというか、ほとんど知りません。ここはまさに経産大臣の所掌範囲のところなので、海江田さんとか、当時の保安院関係者の話では、一般論として、あんなところにあって何の対策もとれてないところではというか、最初から電気も落ちているわ、何も落ちているわで、池田副大臣には行ってもらいましたけれども、役に立たないねというのは11日ぐらいのうちから。

どこかから説明を受けたわけではないですけれども、どうせ役に立たないというのは直感的に思っていましたので、その後、正直に言って、ここについての関心は余りなかったです。

これこそアンダーラインを引いておいていただきたいんですが、ここが機能するんだと思ったら それこそ細野補佐官を行かせるとか、寺田補佐官を行かせるとか、福山副長官を行かせるとか。ここは機能しないと思っていたけれども、法律上はだれかを行かさなければいけない ということなので、池田さんに行ってもらったというのが正直なところです。ここはアンダーラインをお願いします。

○質問者 わかりました。

一つだけ、ちょっと変な話といたしますか、お化けのような話がありまして、14日～15日にかけて、オフサイトセンターは福島の方に移転するんですが、14日の夜の当時、オフサイトセンターに現地対策本部の副本部長として行かれていた保安院の黒木審議官が、オフサイトセンターにいたら電話がかかってきて、枝野ですと。

○枝野前官房長官 あり得ないですね。

○質問者 内容は、準備は進んでいますかという話でした。

○質問者 いつでも移転をできるように、準備は進めておいてくださいと。

○質問者 枝野と名乗ったんですと。でも、どうして俺にかかってくるんだろうと。

○枝野前官房長官 それはあり得ないですし、その時点では黒木さんという人自体を知らないです。まず、黒木さん指名ができないですね。その時点では平岡さんとか、そのクラスでも顔と名前を知りませんでした。

○質問者 そうなんです。本人もキツネにつままれたような。

○枝野前官房長官 申し訳ないですけども、オフサイトセンターは、勿論機能できる部分は機能してもらえばいいと思っていましたけれども、それこそ、それは経産省、保安院でやっている話だという受けとめで、むしろ県庁に移ってからのほうが、福島のメディアに対する窓口としてちゃんと機能させなければいけないなど、むしろそのときから関心を持ったという感じですよ。

○質問者 わかりました。

14日。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 撤退問題ですね。

○質問者 撤退問題と統合対策本部の設置です。

○枝野前官房長官 時系列というか、何時何分というのは、正直なところ記憶がなかなかないんですが、いずれにしろ夜です。夜に呼ばれて、この日の夜は総理応接室です。総理執務室の隣で、本当は禁煙なんだけれども、海江田さんと私がいたのもくもく状態で、後から総理を入れて、いわゆる通称御前会議というときの前に、灰皿を全部片付けてという明確な記憶がありますから間違いないですが、何時ごろに呼ばれたのか。あのときはテレビをつけてもいつも原発のニュースだし、執務室にいるときも、危機管理センターにも流れていますから全部テレビの映像は流れているんですが、まさに時間感覚は全くなしなので。ただ、夜なのは間違いないですが、撤退問題で呼ばれたのか、それともこの日の夜は2号機が危なくなったのかな。それこそ2号機の圧力が高まって、ベントもできず、水も入らずという状態で大変だという状況だったのか。

これはほかの人に聞いてもらえばと思うんですが、海江田さんも大変だし、総理も大変だけれども、とにかく枝野はできるだけ休ませろと周りが気を使ってくれていて、とにかく大事なところ以外は執務室においておけば、うとうとでもするだろうからと執務室においておいてもらっている状態だったんですが、呼ばれたんです。

どっちだったかな。2号機のリスクの問題だったのではないかな。自信はないです。そこで東電が撤退の話をしているみたいな話もどこか出てきて、そうしたら私あてにも清水社長から電話がかかってきて、私にも同じ趣旨のことをおっしゃった。私は菅さんほど腹が据わってなかったんで、そんなものがあり得るかとは言えずに、趣旨として、私の一存で、はいと言える話ではありませんということで電話を切った。

私の記憶では、海江田さんのところにも来ていたのは間違いないです。あと、細野君のところにも来ていたと思います。

○質問者 生の言葉で、御記憶ではどういう言い方だったんですか。

○枝野前官房長官 生の言葉は、この件に限らず余り正確な記憶をしてないので。いい加減なことを言うてはいけないと思うので。ただ、間違いなく全面撤退の趣旨だったと、これは自信があります。

そもそも、そうでなかったら私に電話してきません。清水社長はこの原発事故のいきさつの中で、何日か後に初めて総理のところにお詫びに来ましたね。

○質問者 13日です。

○枝野前官房長官 そのときに私の部屋にも寄った。それから、私が何かで怒って電話したのがあったんです。

○質問者 停電の関係。

○枝野前官房長官 かな。何かに怒って、こっちから電話したことがあるんですよ。ですが、計画停電のときは、こっちも社長でなかったような気がするな。基本的に、あの社長が私に電話をかけてくるのは特別なことなんですよ。

【取扱い厳重注意】

それから、ほかの必要のない人は逃げますという話は、別に官房長官に上げるような話ではないですから、わざわざそんなことで私にかけてくることは考えられないですし、みんな別々に電話を受けていますから、勘違いとかはあり得ないですね。

東京電力に対して善意でとらえれば、事柄の性格として、東京電力の中でも共有されていたオファーだったのではないだろうと思います。少なくともその時点では、こっちもさすがに東電が逃げようとしているなんていう話は言えないねという話だったので、その応接室メンバー限りにはしていましたから、東電の側も社長、会長限りぐらいの話だったのではないかと思います。

だから、あのときの全体のやりとりの中では、だれかリエゾンはいたはずですが、14日の夜のやりとりの中では、応接室、その周辺にも東電のリエゾンはいたはずですが、その人たちも社長から何かを言われていたわけではないと思います。

菅さんのキャラクターについては皆さんも、いいところも悪いところも、既に十分取材をされていると思いますが、さすがに私も、受け取りの勘違いで菅直人さんを起こすような腹は据わっていません。

○質問者 時間的な流れの中で、どこら辺なのかなということをお聞きしたいんですが、確かにいろいろな方にお話を聞きますと、14日の夜7時、8時ごろに

将来の撤退の可能性を電話した事実は

に電話したかどうかについては、はっきりしないらしいんですが、この時間帯は炉がすごく不安定な状態にありましたから、将来的に撤退も考えているんだということを電話したことはあるようです。

今度は後ろの方へ行きますと、総理をを起こして東電の撤退問題について議論をされたのが午前3時を回っている時間だったと思われる。この流れの中で、枝野長官が起こされて話に加わったのは、結構長い時間。

○枝野前官房長官 逆算をしていくしかないんですが、菅さんを含んだ会議をやったのが3時ぐらいですか。

○質問者 3時を過ぎていると思います。

○枝野前官房長官 そうすると、起こしてそういう会議をしようと思ったのが、多分2時とか2時過ぎだと思います。当時は藤井さんがまだ副長官だったと思いますし、松本龍さんも、大事過ぎる話ということでその辺も呼びましたので、若干時間がかかったのですが、1時間はかかってないと思いますが、30分後とかそれぐらいでセットしたと思いますので、総理を起こす判断をしたのが2時～2時過ぎぐらいだと思います。相当何やかんやとやっていたんですが、7時からずっとやっていたという状況では全くないです。0時前後だと思います。早くても10時とか11時ぐらいからだったと思います。

一番間違いないのは、通信記録を見てもらえばいいと思うんです。だれかが吉田さんと話しています。私も話しています。つまり社長がこんなことを言っているけれども、どうなんだという話は、間違いなく吉田さんと話しています。私は、清水社長と話したことも

【取扱い厳重注意】

数少ないので明確に覚えています。私自身は、実は吉田所長とほとんど話していません。ここは私自身も吉田所長と話しました。だれかの電話で吉田所長に電話をして、これは大事なことから官房長官も直接話してくださいと。

あえて言えば、確かにあの日の夜は吉田所長も若干弱気でしたので、趣旨として、あなたの肩にかかっているんだから頑張ってくれみたいなことで、激励してくれみたいなことがあったので話しています。多分それが0時とか1時とか、それぐらいだったと思うんです。

その時点の官邸に入った情報では、不安定というか、危ない状況だったと思います。その電話で私が直接したというよりは、私に電話を渡した人間は細野だと思うんですが、現地と直接話して、なかなか水が入らない、圧力が下がらないということで大変だみたいな話のやりとりでした。というのが、多分0時とか1時です。

推測ですけれども、保安院長とか海江田さんが夜7時ぐらいだったとすれば、海江田さんが何とおっしゃっているのかはわかりませんが、海江田さんにあった全面撤退の話はもう一回あったのではないですか。そのことをとらまえて海江田さんが言っていたのではなくて、その後にあったのではないかと思います。

○質問者 複数回とはおっしゃっているんですけれども、時間がはっきりしないんです。
○枝野前官房長官 正直なところ、ましてや夜なんかになると、今が何時なのかと全く感覚のない数日間が続いていましたので。多分、逆算するとそういうことになる。明確ではないですが、起こされたという記憶はあるんです。そうはいつても、昼間の時間帯にうとうとすることは非常に少ないので。

○質問者 わかりました。

今の話の中で、吉田所長と直接話をされたという話が出ていまして、3月15日の5時39分、まさにこれは、今、統合対策本部ができ上がりました、今、東電の方に行きましたと枝野長官が話されている記者会見の中で、「この1時間ぐらい前のタイミングで、私と同席しております、これは具体的には海江田大臣だったでしょうか、細野補佐官だったでしょうか、現地の吉田所長と直接連絡をとらせていただいておりますが」。

○枝野前官房長官 この記憶と同じ記憶ですね。

○質問者 「その時点での認識は、そもそも、水位計そのものが機能してない」云々という話があって、水が不安定にしか入っていないという話。

○枝野前官房長官 この発言と、今の記憶は同じ記憶です。1時間前というのは、現時点の1時間前ではないと思います。

○質問者 そうすると、これは判断する1時間前という趣旨なんですね。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 会見の1時間前では、ちょっと遅過ぎますね。

○枝野前官房長官 この1時間前は、やれている状況ではないですから。

○質問者 わかりました。

【取扱い厳重注意】

○質問者 3月11日～15日までで、多分ほとんど寝ておられないような状況だったと思うんですけども、ざっと言うと、3月11日に始まってからどんな1日を過ごされていたんですか。睡眠なんかはどういうように。

○枝野前官房長官 横長のソファがありますので、その期間はずっと官房長官室のソファです。ただ、最初の晩はそこにちゃんと枕を置いて寝るような状況ではなかったですし、後で出てくるでしょうけれども、基本的にはアメリカとの関係とかで夜中にたたき起こされたり、長くて2時間ぐらいの断続的の感じだったと思います。

○質問者 それが15日ごろまで。

○枝野前官房長官 もっとでしょうね。

○質問者 もっとですか。

○枝野前官房長官 16～17、最初の土曜日、日曜日。最初に公邸に行ったのが何曜日だったかな。1週間ぐらいはそんな感じですよ。

寝たと感じたのは、1週間目前後のところで官房長官公邸に。まず総理が先に公邸に行けと言ったのに彼は最後まで抵抗して、しようがないので、二人が共倒れになったらいけないと周りから言われたので、まず官房長官が官房長官公邸に行けと言われて、私の方が先で1日早かったと思いますが、そのときに初めて寝たという感じでした。

○質問者 それは何日ですか。

○枝野前官房長官 記者会見に残っていると思います。

○質問者 記者会見に出ていますね。寝てらっしゃるんでしょうかという質問をされていた。

○枝野前官房長官 官房長官公邸に戻ったのは、たしか報道も出ていたと思います。

○質問者 今の最後のところで、3月14日の22時かそこら以降のお話ということで、東電の撤退問題に関してなんですが、もともと2号機のリスク、2号機が危ないということで、官房長官執務室の方でうとうとされているときに起こされたということと、清水社長からの電話というのは、時系列的にはどちらが先に。

○枝野前官房長官 清水社長の電話はずっと後です。

○質問者 その方がもっと後になる。

○枝野前官房長官 ずっと後です。

○質問者 そうすると、まず起こされて、いろいろな方々とおられる場所に電話がかかってきた。

○枝野前官房長官 そうです。これが内線を回されたのか、だれかの携帯を渡されたのか、ちょっと記憶がないです。私の携帯は知らないし、携帯にはかかってこない。多分内線ではないかと思うんです。

○質問者 吉田所長への電話というのは、更にその後に。

○枝野前官房長官 その後です。

○質問者 起こされた後に応接室の方で話をされていたということですけども、それは

【取扱い厳重注意】

ずっと継続的に話があって、総理を起こそうという話になって。

○枝野前官房長官 それは撤退の問題と、2号機の危ない状態と両方が同時並行。

○質問者 それで、総理を起こす前に藤井官房副長官とか松本大臣とかを呼ばれて、集まったところで総理を起こしてと、こういう流れになるということですか。

○枝野前官房長官 先に起こしていたと思います。だから、少人数では事前に話していたんです。そんなものはあり得るかという話にはなっていました。

○質問者 集まる前に。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

最後、また総理も応接室に入って話をされたと聞いているんですけども、そのときにたばこを片付けるという話の流れですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 最後に応接室で総理も入って話をするときには、東電の方はいらっしゃいましたでしょうか。

○枝野前官房長官 今、自分の直系の部下だからあれですけども、正直に言って、当時は安井さん一人だけが、唯一技術がわかっているまともな人間だということはわかっていたけれども、名前もどこの所属かも私は知らなかった。私はそこも苦手で、人の顔と名前を余り覚えなくて、この人だれだっけということが結構あるんですが、まさにこんなときはどこのだれかは余り関係がないと思って、まともなことを言っているかどうかが大変だったので、今になって思うと、この人が安井さんだという人が、一人技術のことがわかってまともなことを言っているということだけがわかっていました。さすがにそのころには、班目さんは班目という人だとわかっていましたが、あとはほとんど、だれがどこの所属のどういう人なのか自体がわかりません。

○質問者 もし、ここで東電の人がいるのであれば、撤退とは本当なのかという話になりそうなものなんですけれども、なかなかそういうリアルな話はなくて、他方、いつもここに入っていた竹黒さんとか■■■さんというのは、この最後のところに入ってなくて、お一人はホテルの方にシャワーを浴びに行かれていたり、一人は官邸の2階のソファでずっと寝ていたという話もありまして。ただ、入っていたとおっしゃる方もいまして、どんな御記憶かなど。

○枝野前官房長官 少なくとも私はそんな感じなので、所属とか名前とかを余り覚えられないのですが、いればおたくの社長は何をやっているんだ、何を言っているんだという話になっているはずですから、そもそも私が入ったのが10時なのか11時なのか、12時なのかはわかりませんが、その時点からいないんだと思います。

○質問者 細かなことなのかもしれませんが、午前2時ぐらいに伊藤危機管理監に呼ばれて戻っていったところ、東電の人らしい人がいて、撤退なんかはあり得ないだろうと東電の人に向かって言いましたという話をするものですから、そうするといたのかなど

【取扱い厳重注意】

か、あるいはもしかしたら作業着的なものを着てらっしゃった方がいて。

○枝野前官房長官 東電の防災服は目立ちますね。保安院と安全委員会も目立ちますから、防災服を着ているとどこの所属かはわかります。

○質問者 間違えるということは。

○枝野前官房長官 それは間違えることはないですね。

○質問者 わかりました。

もう一点なんですが、これはある資料からばたばたと抜き書きをしてきたので、余り正確ではないんですけれども、14日～15日にかけての2号機の圧力容器を計測したものがあつたものですから抜き書きしてきました、途中タイプミスはあるかもしれませんが。大体の傾向がわかればいいということで、今日のヒアリング用につくってきたんですが、14日の夕方から色をつけているところの圧力がずっと上がっていて、消防車の水を入れるときの圧力が0.85と言われているようですので、それを超えていたら水が入らない状態ということで、水が入らないところは色をつけているということです。こんなイメージなんですけれども、黒い線は1時間分を黒い線にしております。

ずっと見ていきますと、3月14日から15日の1時10分、12分、このぐらいまでは入ったり入らなかったりというのがあって、その原因はSR弁が開かなかつたり閉じてしまつたりというのがある。その後、1時以降は一応安定して水が入るようになっていっています。

2時45分からは記録がないんですけれども、この間は特にSR弁が云々という話ではないので、多分ずっと入っていたんだろうと思われているんですが、そうしますと、御前会議といいますか、総理応接室で議論されていた時間帯、最後は1時を過ぎて3時ぐらいになっているわけなんですけれども、その時間帯は水が入っていた。

○枝野前官房長官 そういふことですね。

○質問者 吉田所長のヒアリングの中においても、この後はずっと安定して水を入れて、ほっとしていたという話も聞いているところなんですけれども、こういう情報、つまり14日～15日未明にかけては非常に不安定なんですけど、1時を回ったところからは安定してきているという情報が、タイムリーには入ってなかったと思われる。少なくとも入って安定しましたよという情報はいかがでしょうか。

○枝野前官房長官 多分私が吉田さんと電話で話したのは、この0時13分～1時12分の間なのか、その前なんだろうと思うんです。この間、一喜一憂していた記憶があります。

○質問者 この辺りはしているようですね。

○枝野前官房長官 だから、1時12分の後に、今、何とか入っていますという話があつたのかどうかはちょっと記憶がないです。あつたとしてもこういう繰り返しでしたから、本当に入り続けるのか、ほっとする情報が入っていたわけではない。一喜一憂しながらという状況の中で、何が入っていたかまでの記憶はないです。

○質問者 わかりました。

【取扱い厳重注意】

今の11日のからの流れの中で、さかのぼって11日のことについて、もし御記憶を喚起できればということで教えていただきたいんですが、それは11日の緊急事態宣言のことでして、この緊急事態宣言というのは保安院の方が準備をしまして、当初は海江田大臣と寺坂保安院長が総理のところに入って話をされていたようです。この時間帯、長官はちょうど記者会見か何かに入っていたらっしゃって。

○枝野前官房長官 その記憶はないですね。

○質問者 17時と18時に記者会見が入っているんですけども、一方で、海江田大臣と寺坂院長が総理のところに入られて説明を始めるのが17時42分という時間帯でして、その後、党首会談が入るものですから、一旦6時ちょっと過ぎに中断して、5分程度で戻ってこられて再開するんですが、その戻ってこられるまでの間に、総理にいろいろ質問されていた件、例えば緊急事態宣言というのは法律的にどういう構造になっていて、何を立ち上げるんだという法的なスキームについて答えられなかったので、この総理のいない時間帯に、秘書官も一緒になって調べたという話があります。ここに、枝野官房長官も入られたやに聞いているんですけども、御記憶は。

○枝野前官房長官 どこでやったのか。

○質問者 六法を調べられていた姿をですね。

○枝野前官房長官 この一連の動きの中で、何度か原災法の条文をくれというのは何回かありました。でも、このタイミングの記憶はない。間違いないのは東電に乗り込むとき。東電に乗り込むときに、何か強制的な権限がないのか、根拠法がないのか。ないならいでしょうがないから、原災本部長のすごい強権がありますから、これで読み込むしかないのではないかみたいな話は、法律家としてしました。

法律の読み方で、あと何回かあったのは間違いないですね。事務方が、何項の何条でこう読むのでこうしますということの説明がなく話を持ってこられていて、何をやっているんだ、条文をくれと言ってやったのは何度かありますが、そのタイミングは帰宅難民とかほかのことで、そんな余裕はなかったのではないかな。

○質問者 このときは帰宅難民の話も。

○枝野前官房長官 帰宅難民の会見を5時半ぐらいにやっているんですね。5時半ぐらいの感じでやっていて、その後、帰宅難民でいろいろやっているんです。例えば公共団体の体育館とか、学校の体育館を開けさせろとかという話を地下の危機管理センターから各省に振って、これを全部やってくれと。開いたところを全部集約したら、福山さんがそれを全部記者発表して、報道してもらおうという話をオペレーションしていましたから、そんな余裕はなかったのではないかな。

○質問者 わかりました。

それから、12日未明のことですが、菅総理が12日の朝に1Fに視察に行かれることになる。菅総理が1Fに行きますという話は、12日になって間もない時間帯に言われたと。

○枝野前官房長官 正確な時刻はわかりません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 そのときに官房長官として、総理が行くことについてはどういう御意見だったんですか。あるいはそれを総理に言われましたか。

○枝野前官房長官 趣旨として、政治的には絶対にたたかれますねと。彼はもともと政治的なリスクよりも違う判断をすることがよくあるので、一応念のために、彼は結果がよかったとしても、政治的にぼろくそにたたかれるということを目覚めて言っているのかなということだけは、確認しないといけないと思ったので、そのことを確認する問いは出しました。けれども、それはいろいろなところから報道されているとおり、これも正確な文言を覚えているわけではないですが、趣旨としては、そんなことを考えている場合ではないかと言って、行くと言うので、その政治的リスクがわかっているならと私は思いました。

○質問者 わかりました。

ちなみに、海江田大臣も視察に行かれるという話でございましたか。

○枝野前官房長官 むしろ、海江田さんは自分で行きたかったのではないですか。そこは明確に直接言われたわけではないけれども、総理でなくて自分が行きたい、あるいはできれば2人で行きたいみたいなニュアンスだったんで、2人そろって抜けられてしまうと。官房長官は、法律上は原発について権限がないですから、2人そろって抜けられる話はないなど。海江田さんの立場として行きたい気持ちはわかるけれども、総理が行きたいと言っているし、それなら総理なんだろうと私は思いました。だからといって、調整をした記憶はないです。

○質問者 官房長官がとめられたというふうに。

○枝野前官房長官 海江田さんが言っていますか。

○質問者 海江田さんではなくて、福山さんでした。

○枝野前官房長官 福山さんから、海江田さんも行きたがっているみたいな話をされたら、2人そろっていなくなるのは、幾ら何でも無茶だろうとかいう話を福山さんとしたということですね。

○質問者 直接言われたわけではない。

○枝野前官房長官 直接あった記憶はない。

○質問者 言わずもがなの話かもしれませんが、そのときに考えられた政治的リスクというのはどういうこと。

○枝野前官房長官 パフォーマンスだと言われるに決まっています。政治的には絶対にあり得ないです。政治論としては絶対にあり得ないです。こんなところで東京を離れること自体、どんなに結果がよくてもたたかれるのはよくわかっていました。

○質問者 菅総理としては、パフォーマンスを超えた目的を持っていたということですか。

○枝野前官房長官 パフォーマンスとしてやったら絶対にマイナスだということは、彼はさすがにわかっていました。政治的パフォーマンスとしてやるんだったら、むしろマイナス効果の方が大きい、それはわかっていますねという趣旨の念押しをしたわけで、それは

【取扱い厳重注意】

わかっていました。

だけれども、まさにベントができない話まではいっていませんでしたけれども、総理だけではなくて官邸全体が、とにかく情報が入ってこないことにはいらついていたから、こんなものは現地に行って見てくるしかないだろう、だれかが行くしかないだろうと言われてたら、それはそのとおりだと思いますし、行くとすれば菅さんか、海江田さんか、私か、福山さんか、細野君か、これぐらいのところですね。でも、その段階で細野君は、原発担当補佐官という感じまで、ばしっと入り込んでないですね。2日目ぐらいからですね。そうすると上の4人で。菅さんが、どういうことで自分が行きたかったのかは菅さんに聞いてもらうしかないですね。

これも下線ですけれども、私の感覚からあえて言えば織田信長型のリーダーですから、俗に言う桶狭間で、一騎だけで先頭を走っていくタイプのリーダーです。どっちかというとも私も昔はそうだったつもりなんです、菅さんと長年一緒に仕事をしている手前、一応じっとして全体を見る仕事をだれかがそばでしなければいけないと思っていたので、そもそも3.11以前から、この官邸は一種そういう役割分担だったんです。

ということを見ると、まさに菅さんが現地に行って、私が官邸で全体を見ていることが、政治的な評価という意味では絶対にマイナスだけれども、正直その方がものは回るわなと思いました。

○質問者 ポツの最後にあります統合対策本部なんです、先ほど撤退問題について詳しくお聞きしたところなんですけれども、この撤退問題と統合対策本部の設置というのは連続的に進行していくんですが、この2つの間の因果関係といいますか、つまり撤退問題があったから統合対策本部なのか、ほかにも何か要因があるのか。統合対策本部でき上がっていくことになる理由をお聞かせください。

○枝野前官房長官 撤退問題で菅さんを起こしてこんなことになっていると、こんなことはあり得ないではないかという流れの中だから、撤退問題が最後の決め手だと思います。

私は東電に乗り込んでやるんだと聞いたときに、しまったと思いました。もっと早く私が気づかなければいけなかった。私のそのときの印象はそうだったので、菅さんの頭の中ではずっとあって、多分これがきっかけになって、とにかく直接グリップしないと、どこまで行くのかわからないということだったんだと思います。まさにこれは菅さんの心情の問題です。少なくとも私にはそのときに初めて出てきた話ですし、言われた瞬間に私は、もっと早くやるべきだったというのが直感的な反応でした。

○質問者 実質的に見たら、それはむしろ積極的な結論にすべきだと。

○枝野前官房長官 本当に遅かったと思っています。遅かったというのは反省です。

○質問者 あとは法的な詰めが大丈夫かというところで検討された。

○枝野前官房長官 検討というほどではないですけれども、ちょっと六法を見せてという感じで。本部長の権限でやってしまうしかないね、あとは東電が任意でうんと言わないといけないねと、こんな感じで。

【取扱い厳重注意】

○質問者 こういう場合、国際的には事業者が全責任を持って処理をしていくものであって、役所は余り口を出さない方がいいというのが国際的な標準ですね。ただ、東電がめちゃくちゃだという状況の中で、やむを得なかったのかもしれないですけども、その辺りの根本的な在り方がどうあるべきだったかということについては。

○枝野前官房長官 少なくとも実体としての東電に、当事者意識も能力もない。多分それは、今も変わってないんだろうなと思います。

それから、恐らく万が一、日本で似たようなことが起こったときでも、これだけ大きなことが起こったら政府がやらざるを得ないと思います。つまり、それは国民とメディアのニーズだと思います。政治的には、一民間企業が幾ら一生懸命にやっても、政府は何をやっているんだという声には、その局面局面では対応せざるを得ないだろうと思います。

非常に象徴的なのが、12日の未明のベントの会見をしたときに、実は東電の申し出に基づいて保安院も了としたのでベントしますという発表なんです。

これに対して、そのときメディアは批判でしたからね。政府が責任を持ってやらないのは何事だ的なトーンでした。だから、多分日本ではどの制度を仕組んでも、結局政府がやらざるを得ないだろうと思いますし、仕組みとしても、これだけ大きなことになって自衛隊から消防から動かさなければならないとなったら、少なくとも事業者と同等の情報と権限を持ってないと、自衛隊を動かすといってもどうしようもないですね。

国際的に事業者が責任を持つということの意味は、私も今、経産大臣だからもっと調べなければいけないのかもしれないんですが、ちょっと首をかしげたい。つまり各国の政治、社会事情の違いを前提にしっかり整理しないと危ないと思っています。

○質問者 対策本部のメインの目的ですけども、情報が全然入らなくていらいらしたという情報の問題は大きいと思いますが、更に政府が中心になって具体的な、例えば収拾の対策とか、そういうところもこの中でやらなければならないんだという発想ですか。

○枝野前官房長官 必ずしもそんなことはないです。

実際にベントをするのかしないのかということも、実際にベントをしたいと言ってきたことに対して、保安院がいいのではないですかと言っていて、説明を受けたら、それはそうだ、早くやった方がいいではないかでしたし、海水注入についても東電が言ってきたのではないですか。東電が言ってきて、大丈夫なんだろうなという念押しをしたらそれに過剰反応したわけです。

ただ、少なくともそういう判断をするに当たって持っている情報を共有してないと、それこそ消防車が必要だとか、初日で言えば電源車が必要だとか、電源車が必要だというときに、何キロワットのどういうコードでつなぐものがなければいけないのかということが、わからなければ必要なものは取り寄せられなかったわけで、だから、記述的な部分のところで、それからそれに基づいて社会的に対応しなければならないところの線引きは、非常に微妙な難しいところがありますから、一体でやるしかないんだと思います。

○質問者 当事者意識と能力がないとおっしゃいましたけれども、その能力というのは、

【取扱い厳重注意】

当時の現在進行形における収束する意味についても能力がない。

○枝野前官房長官 収束もないでしょうね。私は、今でもないと思います。当時はなかったと思いますね。

象徴的な話ですけれども、菅さんが東電に乗り込んでいったときの話は余り詳しく聞いてないんですが、その段階まで平時と同じような社内決済手続きをやっていたみたいです。考えられないですね。今、ほかのことを考えてもそういう社風は変わってないみたいですね。

危機管理のときに従来と同じ決済システムで、そもそも大部屋しかないところで、大部屋で全部危機管理をやっていた。これは全部間接情報ですから、多分皆さんのところで事実関係を詰めていただくんですが、本当にそんなことをやったら考えられないですね。それほど反省しているとは思えないです。

○質問者 関係のどなたかのヒアリングの中で、リーダーが決める組織ではなくて、みんな決めて渡れば恐くないみたいな組織だと。

○枝野前官房長官 そうだと思いますね。

○質問者 そういうことですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 撤退のところまで一点だけ。

先ほど菅総理を起こされて、御前会議で総理に説明されたということなんですが、この場所で枝野官房長官から説明をされたという話を伺っております、そのときの話の挙げ方として、東電が全面撤退ということを申し出ているので、認めますかという聞き方であったという方と、どういう条件が成就すれば、今後撤退も認める可能性があるでしょうかと、要するに、今は認めていないけれども、今後どういう条件で悪化すれば認めますかという聞き方をされたら、ちょっと微妙にニュアンスが違う説明ぶりをされていたとおっしゃっている方がいてですね。

○枝野前官房長官 少なくとも主観的には前者です。間違いないです。今後どうするかなんていう話で夜中の3時に起こしたら、さすがにそれは起こしたのは何だろうなということを超えて、当時は総理をいかに休ませなければいけないかという命題とも全く反するので、そんなことはあり得ないわけで、私はそんな言い方はしないと思うんだけど、これは記憶ではないですが、多分私だったらこういう言い方をしたろうなという想像ですが、東電が全面撤退だなんてばかなことを言っていますとか、確かにそこで働いている従業員の命のこともあるから、先々考えなければいけないんですけれども、今、全面撤退なんて言っているんですが、これはさすがにちょっと決め切れないみたいな言い方はしているかもしれない。

ですが、趣旨としては全面撤退の話について来ているので、従業員の命、作業員の生命にも関わる事だから、総理も含めて決めさせてくださいという趣旨です。それは明確です。でなければ夜中の3時に起こせません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 一緒に入られた方の中で、官房長官が最初に説明された言葉で、事前に論点をどうするかを詰めていたとは聞いているんですが、今すぐ撤退すると言っていますけれどもどうしますかという話ではなくて、むしろ撤退したいと言っているだけけれども、どういう状況になったらそれを認めますかという聞き方をされた。ただ、その説明が、いつも流暢な官房長官が若干言いよどんでいたの、長官もさすがに何かちゅうちょされているところがあるんだと思っていたんですという話も、ちょっとありました。

○枝野前官房長官 まさに、総理を夜中にたたき起こさない判断できないような話であると。一方で、菅さんの結論はすっぱりとしていてすごいなと思ったんですが、それはもうそのまま撤退したら大変なことになるというのは、勿論こっちもわかっていたわけだから。だけれども、例えば目の前であそこがチェルノブイリ型の爆発なんかしたら、まさに残れと言った人たちが直接そこで即死ですから、それはそんな怪々な話ではないという思いは、そのとき確かに持っていましたから。だけれども、菅さんに余りむにやむにや説明すると、それが一番嫌いな人ですから、今、言ったような趣旨の感じで。

そもそも菅さんは撤退なんかあり得るかという結論を出しそうだと思っていたので、ただ、そのときに彼がわっと何か言ってしまう前に、作業員の皆さんの生命のリスクということもあるみたいなことは、ちゃんと同時に考えた上で結論を言ってねという思いはあったかもしれないですね。これは全部想像です。今のような受けとめがもしあるんだとすれば、そういうことだと思えます。ただ、記憶として鮮明なのは、菅さんは非常にクリアでした。

○質問者 そもそも清水社長からの電話は、枝野官房長官に対して了解を求めるような電話だったんですか。それとも内部でこういう議論をしているという報告なのか。

○枝野前官房長官 了解を求めようとしたから、私の答えは、そんなことは私の一存で答えられませんという答えなんです。

○質問者 それに対して、清水社長の反応がどうだったかという御記憶はありますか。

○枝野前官房長官 強く押し戻すでもなく、わかりましたでもなく。

○質問者 それから御記憶の中で、細野さんであるとか、海江田さんなんかについても電話があったと思うということをおっしゃっておられましたけれども、なぜそのように思われるんですか。

○枝野前官房長官 私が清水社長からの前に、その話を聞いていたからです。

○質問者 お二方からそういう電話があったという話を聞いて、その後で清水社長からお電話があったということですね。

その後、15日の4時ごろに清水社長が官邸の方に来られたと思うんですけれども、どなたがお呼びになったかという記憶はありますか。

○枝野前官房長官 まさに御前会議を踏まえて統合本部をつくることにしたので、それで呼んだんですね。

○質問者 それは事業者の了解を得るということのために。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 それから、社長を呼んで撤退なんてあり得ないということを伝える。もしかすると、呼んでいる途中に相談をされていて、もう乗り込むしかないではないかみたいな話になったのかな。ちょっと明確ではないです。そういう一連の流れの中で。

○質問者 実際に清水社長が官邸の方に来られて、その席には枝野大臣も立ち会われておられますか。

○枝野前官房長官 立ち会っています。

○質問者 その際、菅総理の方から撤退はあり得ないという旨を伝えられているということによろしいんですか。

○枝野前官房長官 そうです。

○質問者 それに対しての清水社長の反応はどうだったんですか。

○枝野前官房長官 予想どおり。わかりました、撤退なんかしませんと。

○質問者 特にごねるとかいうことはなかった。

○枝野前官房長官 多分それは想像どおりでした。この流れの中で総理が呼んだら撤退なんか許してもらえないということだから、多分あの人はわかりましたと言うねと言っていたとおりました。

○質問者 統合本部、要するに国側の方が事業者の方に。

○枝野前官房長官 そっちの方がごによごによ言っていましたね。

○質問者 言っておられましたか。

○枝野前官房長官 余り正確ではない。多分場所もないしとかとごちゃごちゃ言っていたから、とにかく行くんだみたいな感じで。

○質問者 一応、もうその場で行くということが決まった。

○枝野前官房長官 ごによごによ言っていましたけれども、5分も10分も粘るとか、全然そんな感じではないです。二言三言、勘弁してくれないかみたいなこと。だから、そんなに強く記憶に残っているわけではないですが、ごによごによ言ったのは記憶があります。

○質問者 わかりました。

○質問者 今のことに関連して、統合対策本部が3月15日の設置ですけれども、18日の記者会見のときに、今日の報道で全面撤退する意向を政府に打診したという報道があるんですが、私は承知しておりませんというのは何か。

○枝野前官房長官 さすがにこの段階では言えなかったです。この段階で、そんな打診もありましたが断りましたと言ったら、いろいろな意味でもたないです。

○質問者 わかりました。

次の避難の方の話です。先ほど①～⑥までのそれぞれの避難指示、屋内退避指示について順次教えていただけたらと思うのですが、①につきましては、先ほど既にお聞きしましたので②から行きたいと思っておりますけれども、②のときには1Fから半径10キロの避難の指示ですので、3月12日5時44分は総理が1Fに視察に行く直前の話でありまして、恐らくこのときは官房長官も地下にいらっしやって。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 これはむしろ主導した感じにありますね。

○質問者 このときの議論といいますか、なぜ10キロを出したか。なぜこのタイミングかというのと、なぜ10キロかということです。

○枝野前官房長官 要するに、ベントができてないと。するすると言いながらベントができてなくて、なぜできないのかすら報告がない。ベントできないとどうなるんだと言ったら、班目さんだと思うんですが、水素爆発ではなくて炉の爆発、普通はそんなに簡単に爆発するわけではありませんがみたいなことは言いながらも、どんどん圧力が上がってきたらどこかが壊れますと。そうしたら放射性物質が出てきますという趣旨の話があったので。ベントがいつできるかわからない状態でしたから、それは早めに逃げておいてもらえないですねというのが、まさにベントができてない、いつできるかわからないという状況で圧力がどんどん上がり続けたことを考えたとき。

そうすると、たしか3キロはすぐに逃がすで、10キロが3.11以前の想定の方難の区域でしたから、そこまで逃げておいてもらえないではないかみたいな話。保安院も安全委員会もそんなに異論なく、そうですねみたいな感じだったと思います。

○質問者 恐らく、今、おっしゃったのはEPZという重点的な対策区域のことだと思うんですが、EPZは8キロないし10キロと、若干幅を持った決め方がしてあって、そのときの議論の中で、8と10のどれにしようかという話。

○枝野前官房長官 余り記憶にはないです。

○質問者 わかりました。

主として、ベントがだめなら広げなければいけないではないかという流れから決まったということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 これも同じ、次の2Fから半径3キロの指示。これは直後ですね。

○枝野前官房長官 この前ぐらいに、第二原発で15条が出たのではないですか。だから、それに基づいて自然体ですね。

○質問者 これはルーチンワーク的に決められたということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 4炉のうちの3炉について、緊急事態で15条通報がなされておりました、それに基づいてということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 ④ですが、これは1Fでの爆発があった2時間後ぐらいのお話でして、爆発があった1Fではなくて、2Fから半径10キロの避難ということなんですが、このときは入ってらっしゃいますか。

○枝野前官房長官 まだ1Fで何が起こったのかがわかってない状態ですね。

○質問者 そうです。

○枝野前官房長官 入っていた記憶がないんですが、発表していますから。自分で会見す

【取扱い厳重注意】

るような話が入っていたと思うんです。

○質問者 ただ、この日、17時47分の会見のときには、17時39分の10キロの避難の指示については言及されてないです。

○枝野前官房長官 では、入ってないですね。

○質問者 入ってないでしょうか。

○枝野前官房長官 入ってないですね。直前で入って、自分がかんで決めていたら当然言っています。

○質問者 わかりました。

そうすると、これは入って決めたのかといたら、当時はわかってらっしゃらないですね。

○枝野前官房長官 当時はわかってないですね。

○質問者 事後的にもどういうふうに決めたのか、何かお聞きになったことはないですか。

○枝野前官房長官 水素爆発で、なおかつ、水素爆発は起こらないと言われていて起こったわけです。第二の方も15条事象が来ているんだから、いつ何が起こるかはわからない。かといって、今すぐに何かが起こるという状況ではないから、屋内退避ということではないかなと思うんです。

○質問者 わかりました。

実はこれはその直後、1時間後ぐらいに出ることになります1Fからの20キロと若干ずれがあって、はみ出る部分があるんですけども、ほとんど重なってはいるんです。後で⑤の話で、また改めて聞こうと思っていたんですが。

○枝野前官房長官 10キロは避難か。

○質問者 避難です。

○枝野前官房長官 やはりふわっと危ないと思ったんだろうな。

○質問者 実はこのとき、2Fは事象が特別進んでいるということもなくて、考えられるのは1Fでの爆発ぐらいしかない。

○枝野前官房長官 それがきっかけだったと思います。

○質問者 そうしましたら、次の⑤の1Fから半径20キロ圏内の避難の指示のところなんですけれども、先ほども若干お話を伺いましたが、この議論は6時前後に記者会見をされておりまして、この避難指示のときには入ったか入らないか、若干微妙な時間帯なんですけれども、議論に参加された御記憶がもしあれば。

○枝野前官房長官 後から思ったら非常に不本意なんですね。18時から記者会見をさせておいて、そこで避難の指示を出させずに、終わったところで避難指示を出しているのは、官房長官としては非常に不本意なんですけれども、2時間も待たせてしまっているわけですから、その前の段階で議論していればその結論を待ちますよ。だから、かんでない。余り考えにくいんだけど、だれか記憶喚起をしてくれるようなことを言っていないですか。

○質問者 このころの官房長官としての役割は、避難の件は官房長官のところでは最後決め

【取扱い厳重注意】

たという話もあるんです。

○枝野前官房長官 ある時期から先はそうです。特に屋内退避とか、ずっと後になっての緊急時準備区域とか、あの辺のところは私のところで整理していました。

○質問者 このころはいかがだったでしょうか。

○枝野前官房長官 間違いなくかまないとできないです。かまないとできないというのは、危機管理監のところ、つまりオフサイトセンターが機能しない、自治体も多分ほとんど機能しない。したがって、危機管理センターから中央政府の各省、つまり自衛隊とか警察とかを使わないと避難ができない。それから、特に高齢者とか病院とかは地元の保健所ベースでは無理だから、厚労省が直接把握して、そこと警察とか消防とか、場合によったら自衛隊と連携してやってもらわないと困るという話は、多分この段階以前に既に伊藤さんなんかと話をし、したがって、そのオペレーションと同時並行。

かんでいて、その準備が何とかなりそうですという話が記者会見が終わった後だったのかな。それにしても早いな。

○質問者 特に⑥の1Fから20キロというのは、タイミングとしてはあつという間に決まってしまったという感じがちょっとありまして、これまでいろいろなヒアリングで聞いているところによりますと、きっかけは先ほど話が出ました再臨界の可能性が否定できないこともあったようです。しかし、再臨界の可能性は、最終的には否定されたわけですので、その理由だけではもたないだろうなどは思うんですが、再臨界という話をきっかけに出ながら、再臨界だけではなくて、1Fでああいう爆発が起きているからというのが大きな理由なんだろうけれども、どんな議論があったのかというのは、実はなかなかクリアにわからないところ。

○枝野前官房長官 避難についてはかんでいたんですけれども、避難の仕方の方なんです。だから、気を付けないと誤解されるかもしれないんですけれども、本当に避難できるのかという側面での関与なんです。ここまで避難させたいと。そうは言っても、実際に避難させられるのみたいな話を伊藤さんとか西川さんと私なんかのところで、それこそ避難の指示だけをして、避難しろと言っても避難のしようがありませんと。

実際に、それでも病院で取り残された方々が、たくさん出てこられてしまっているのは大変申し訳ないんですが、まさに一貫してそういったことを心配していて、そのロジをちゃかと手配したい。そのロジが手配されないうちに急に指示されて、避難指示を出してしまうと、結果的に病院とか高齢者が取り残されるから、そのタイミングはちゃんと考えてくれみたいな方向でのロジ関与なんです。だから、なぜ20キロなのかとか、これで上げようとかということよりも、むしろそっち。

○質問者 オペレーションの可能性ということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 今、伊藤危機管理監と西川副長官の話が出ましたけれども、伊藤管理監と西川副長官の役割分担というのは何かあったんでしょうか。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 御本人同士がどう考えていたのかはわかりませんが、一種のローテーションみたいな感じ。とにかく不眠不休で2人が倒れてしまうわけなので、とにかくどっちかはいよいよみたいな感じで。

○質問者 瀧野副長官も、そのローテーションに入っちゃった。

○枝野前官房長官 入ってないです。危機管理という意味では、やはり伊藤・西川のラインです。2人とも警察かな。まさに危機管理のところはこのラインだった。実際にその2人が、危機管理センターを仕切ろうとして仕切ってやっていたと思います。なので、どっちかはいってくれと。それで、大きな指示ができたときは受けた人間が責任を持って引き継ぐなり、自分が処理するなりしてくれみたいな感じでこっちは受けとめていました。

○質問者 わかりました。

原発と震災という分け方ではなくて。

○枝野前官房長官 私は、そういう理解はしてなかったです。

○質問者 してないということですね。

この20キロの避難の指示の直前の6時前後、5時47分から始まっていた官房長官の記者会見の中で、爆発がありましたけれども、避難範囲を広げなくていいのですかという質問があつて、長官としては、その際に何度か同じような質問があつたので答えられている中で、現在の爆発も10キロという範囲で十分だと考えている、あるいは今後線量を見て、それに応じて変更するかもしれないという話をされているようなんですが、そういう記者会見での対応と20キロの避難指示というので、私がしゃべったこととは違う結論になってしまったみたいな感触を持たれた記憶はないですか。

○枝野前官房長官 避難区域はどうするんだと聞かれることは、記者会見を始める前からわかっている話で、なおかつ、結論を出してないわけだから、どちらにでもとれるように答弁したつもりです。

○質問者 わかりました。

その後、9時の記者会見のときには、線量が下がっているのにどうして広げるんですかという質問がありましたけれども、そこは想定範囲内です。

○枝野前官房長官 言われるなどは思いました。

○質問者 思っちゃったということですね。わかりました。

それと、④と⑥の10キロ圏内の避難指示と20キロ圏内の避難指示なんですが、このときに保安院でメモをしている書類を見ていきますと、当初は両方とも20キロで検討せよという指示が出たかのようなメモがあるんですが、そういう御記憶はございますか。前にも後にもそういう話を聞かれた。

○枝野前官房長官 私からですか。

○質問者 いえ、官邸の中です。今のお話の流れですと、こちら辺の話には、官房長官はほとんど関与されてないのかなと。

○枝野前官房長官 もしかすると、まさにこの③まではともかくとして、③以降の避難は

【取扱い厳重注意】

オペレーションが大変だという話はしていましたから、12日のどの段階だったか記憶はありませんが、どれぐらいの距離だったらどれぐらいの時間と人手が要るんだみたいな話は、伊藤さんなんかと話をしていた記憶があります。つまり、今後広がっていく可能性がある。広がっていくときに、どれぐらいのスピード感で広げられるのかみたいな話はしていたので、それに基づいて、保安院にシミュレーションをしているのかみたいな話はあってもおかしくはないと思う。だから、不自然ではないと思う。

○質問者 わかりました。

○枝野前官房長官 多分このときは、それができるのかという話と、する必要があるのかという話と2つの側面があったんですね。

○質問者 どっちかはちょっと区別できないんですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

○質問者 ロジのことを大変心配されてやっておられたわけですがけれども、ひょっとしたら取り残される人がいると。

現地に行って聞いてみますと、例えば逃げろと言われてどのぐらいの期間を逃げるのか、2～3日なのか、1週間とか10日だか、わからないまま着のみ着のままで逃げましたというのがいるんです。それも逃げる人の立場に立ってみると、そこまで教えてやればいいわけでしょうけれども、そういう配慮はどこがやったらよかったですでしょうか。

○枝野前官房長官 今の立場だと言いくいんですけれども、保安院でしょうね。何日間逃げてなければいけないとか、しばらく帰ってこられないかもしれないかというような問題意識を持つどころではなかったですね。とにかく、今になって思うと、それがなかったからそんなことはみんな忘れていますが、それこそチェルノブイリとかのように、すぐに高放射線量を浴びて健康に害を及ぼすリスクを物すごく心配していたわけなので、この時点では、いきなり即死をするみたいな話とか、いきなりケロイドになるみたいな話の被害を心配していたわけです。だから、とにかくいつ戻ってこられるかとかではなくて、本当にどこまで逃がしておけばそういうことにならないで済むのかということと、実際にそのオペレーションができるのかということで、本当にいっぱいいっぱいでしたね。

まず、何と言っても心配しなければいけなかったのは、急性被曝によるリスクですよ。

○質問者 その時点では、10日とか1週間とか、例えば保安院に考えさせると言っても、保安院自体も無理ですか。

○枝野前官房長官 それは無理だったのではないですか。まして15日に大量放射性物質が出る前の段階ですから、少なくともその段階だったら冷却がうまくいって、まだ若干封じ込めがうまくいってないだけであって、15日の線量を見るまでは封じ込めに失敗してない状況ですから、それだと意外と早く帰れますという結果が出ていた可能性もありますね。

○質問者 今度は、⑥の3月15日11時における1Fから20キロ～30キロの屋内退避の指示なんですけど、この検討の中あるいは決済。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 これはかんでいます。

○質問者 どういう議論がされて、どういう理由でどういう決断をされたのかということについて、御記憶の範囲内でよろしくをお願いします。

○枝野前官房長官 私の記憶だと、恐らくこのころから北西部の方向を初めとして、遠いところのモニタリングの結果が若干入ってきたのではないですか。

○質問者 この日の夜ぐらいからだんだん入っていますね。

○枝野前官房長官 この日の夜ですか。

○質問者 高い線量。

○枝野前官房長官 この日の夜か。

○質問者 ただ、モニタリング結果は13から出ていますけれども、結構高いのが出たのは15日の夜だったね。

○質問者 ちょうど日付が変わるぐらい。

○枝野前官房長官 15から16に変わるぐらい。何でかな。

意識としては、本当にこの距離で大丈夫なんだなということは、一貫してずっと認識を持っている中で出てきた話だと思うんです。

○質問者 15日は朝に4号機が爆発し、2号機でも音がしたという事象が起きた日ですね。

○枝野前官房長官 次々といろいろなことが起こって。

3号機の水素爆発までは、1号機の水素爆発の段階で、しばらく後にほかのでも起こる可能性があるようだとまでは予見していたわけですが、それで瓦れきそのものに高い放射線量とか、まさに水が入るとか入らないとかというのは、この日の未明までやっていたわけですね。本当にこのままで大丈夫なのかという話は、いろいろなところで出ていました。私もそういう問題意識を持っていました。なおかつ、逃げろという決め手はない。

一方で、3.11前からマニュアルを見ると、何かがあっても屋内にいと、急性被曝による影響は相当小さい。何かありそうな可能性がまさに次々と、何か起こって線量を見て、これぐらいの線量の上がり方でよかったですねみたいな話が繰り返されたので、本当に大丈夫かというのをこの間ぐだぐだ議論していたのが、多分その14日の深夜から15日未明というのは一番大変だったときです。そうした中で、屋内退避でもリスクは相当小さくなるんだから、当面何が起こるかがわからない状況が収まるまでは屋内でと、今、思うとそういうことだと思う。

まさにそのときは、屋内退避の指示を出してしまうと、解除するのがこんなに大変な法制だということの意識がなかったのは反省点です。とにかく、今、一番何が起こるかがわからなさそうだから屋内退避をしておいてもらって、解除しようと思ったら解除の要件を満たしませんと言われたんです。そこから先は困ったんです。

今、また収束という言葉がいろいろなメディアで取り上げられていますが、大きな意味では事故の状態が改善されているわけではない。だから、解除の要件を満たしませんと言われてしまって頭を抱えたんです。あえて言えば、そのことを意識せずに屋内退避の指示

【取扱い厳重注意】

をしてしまったことが問題です。ここは物すごく反省点です。

確かに言われてみれば、キリンか何かから放水してとかいうレベルで、本当に収束方向に変更できるのかと言われたら、それは確かに原発が落ち着いているとは言えないわけで、簡単に解除できませんと。法制上もそうだし、よく言われてみると、確かにその法制上の理屈はわからないではない。解除がこんなに困難だと思わないで出したことが反省点です。

○質問者 ところが、最初は 30 キロ避難という話。伊藤危機管理監への指示は、当初 30 キロを検討しろという話があったと聞いています。

○枝野前官房長官 まさに両面ですよ。個別に皆さんが何と言っていたかの記憶はないんですが、私の全体としての印象、記憶では、20 キロで本当に大丈夫なのかということについて、だれも明確なことは言ってくれない。20 キロで大丈夫ですとは言ってくれない。一方で、30 キロなら 30 キロまで逃がさないといけないのか、これについても専門家のところからはだれも明確なことは言ってくれない。そうしたら、念のため 30 キロまで逃がそうと思ったらどうなるんだとか、多分いろいろなことを検討してきたのが 12 日～15 日までの間だったということです。全体の構造としては、それは間違いないです。

だから、30 キロにしようと思ったものを屋内退避にとどめたというよりは、とにかくどういう選択肢があり得るのか、その場合のメリット・デメリット、いろいろなことを考えていたということです。

○質問者 そうしますと、30 キロに広げた場合に 15 万人の避難者が増える。その場合に、避難するにも 1 日、2 日で済むものではないという話は、その流れの中で出てくるということですか。

○枝野前官房長官 そうです。そういう認識は持っていました。今、危ないから何とかしなければならぬのに、そんなに何日間もの間移動するとか、外に出たりするという話の中で、その途中で何か起こってはまずいから屋内退避をかけておいて、悪くなったときに備えてそういった人を逃がす準備と、これで収まってくれれば戻せばいいみたいな感じだったと思います。

○質問者 かえって危険だということなんですね。

○枝野前官房長官 はい。

だから、今後のことを考えたら、屋内退避という選択肢自体をどうするのかということも私もよくわかりませんが、本当に、今、ばんといきました、それで緊急速報を流して、これからの半日は屋内退避してくださいとかというんだったら物すごくわかるんですが、一般的に屋内退避を使ってしまうのはどうなのかなというのは、正直に言って今回の反省を含めて私もよくわかりません。

○質問者 次に、3つ○がありますけれども、恐らく相互に関連していると思いますので一体的にお聞かせ願いたいと思うんですが、この話はその後ろの3つ、3月25日以降の話は恐らくモニタリングとか SPEEDI の話が密接に関連していると思われまますので、先にモニタリング、SPEEDI の話をお聞きしてからにしたいと思ひまして、それでよろしいでしょう

【取扱い厳重注意】

か。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 3の方に行きますが、3月16日にモニタリングの役割分担が官房長官指示で決められている。このメモに書いてあるとおりの結論が、紙にされているということまで承知しているんですけども、役割分担の発案といいますか、これは鈴木副大臣が発案されたということでしょうか。

○枝野前官房長官 少なくとも私の明確な記憶が残っているのは、とにかくモニタリングのデータが五月雨式に、なおかつ、みんな基準もばらばらに、いろいろなところから来るわけです。ちょっといいかげんにしてくれと。こっちも判断に困るし、情報提供を受ける国民の側も訳がわからない。どこかで集約して、何時間置きに定期的に出すということをやってもらわないと、訳がわからないではないかと。

言ったかどうかは別にして、多分13以降だと特に周辺部モニタリングで、ここは高い、ここは低いと、地図か何かで落としてわかるようにしないとまずいではないかみたいな意識があって、だから何とかしろ、どこが責任者の仕事なんだと言って、ちゃんと文科省がやれということをした記憶があります。

○質問者 これは16日の朝に、原安委の久住委員あるいは官邸の地下にいらっしゃった方も集まって指示をされたと聞いているんですけども、鈴木副大臣からヒアリングをしたところによりますと、鈴木副大臣は収集と評価、①と②ですね。特に評価についての案を考えていらっしゃって、翌日16日の朝の官房長官指示の。

○枝野前官房長官 16日の朝はどこでやった。

○質問者 地下と聞いております。

○枝野前官房長官 それで間違いないですか。

○質問者 はい。

記憶の喚起のために、そこに至る経緯を思い出すきっかけになればと思うんですけども、どうも久住委員は当初、官房長官室の方に来るように言われて、官房長官室の前の部屋で鈴木副大臣と会われて、その後、長官と一緒に空いている部屋を幾つか探して、地下にたどり着いたという話もあるんです。

○枝野前官房長官 もしかすると、たまたま鈴木さんも同じことを考えていたのかもしれないけれども、私の記憶としては文科省と原安委、保安院も入ってないかな。

○質問者 入っています。

○枝野前官房長官 入っていますね。関係のところを呼んで、モニタリングをちゃんとどこかで整理してくれないと困る、どこがモニタリングの責任になるんだと言って問いただしたら、モニタリングは基本的に文科省ですと。だったら、文科省は徹底してちゃんとや

【取扱い厳重注意】

ってくれと。原安委は、それに基づいてちゃんと評価してくれということを私から言った記憶です。

○質問者 そうですか。

○枝野前官房長官 だから、鈴木さんが同じことを考えたのかもしれませんが。あるいは似通ったのかな。

○質問者 集まっているメンバーが全然違うんですけども、実は前日に官房長官秘書官の方が3名でしたか。関係省庁の課長クラスの人を集めまして、どんなモニタリングをやっているのかというのを関係省庁から聞いているという事実があります。ただ、これが16日に官房長官が関係省庁の幹部を集められて出した指示と、どうつながっているのかというのはよくわからなくて、我々は官房長官指示でどんなモニタリングをやっているのかを秘書官に調べてもらって、それを踏まえて16日の会議になるのかなという線も。

○枝野前官房長官 秘書官のところまでの正確な記憶はないですが、とにかくモニタリングが整理されない、ちゃんと把握できないことについては物すごく問題意識を持っていたので、ちょっとどうなっているんだということを言うと、秘書官室も優秀ですから、多分情報を集めてくれたということがあったんだと思います。そこで、文科省はちゃんとやってくれよみたいなことがあったのか、なかったのかはわかりませんが、秘書官レベルのところでは話がかなくて、それなら呼んでやらないと整理がつかないですねとかいうことがないと、わざわざ呼ばないです。

つまり、久住委員長代理とか鈴木副大臣を呼んでいる。副大臣をわざわざ呼ぶということはこっちに明確な問題意識がないと、あの局面では呼ばないです。あるいは向こうから官房長官に面会を求めることがない限りは、そんな状況ではないので。あえて言えば、クラス関係なしに指示を出していましたから。

それこそ緊参チームにいるリエゾンは局長クラスでもあるから、その局の担当のことでなくても、何とか省で責任を持ってやってくれと指示を出していました。そういう局面でしたから、わざわざ鈴木副大臣を呼んでいるのは、そういう前段があつてにっちもさっちもいかないから、副大臣とかを呼んでやらせないといけないなど、そっちが先行です。

逆に言うと、文科省はそういう状況をわかっていたから、こういうことに落とすしかないみたいなことを省内で考えていたとしてもおかしくないとは思いますが。

○質問者 なるほど。

○枝野前官房長官 ただ、これは明らかに官邸主導です。非常にいらついて何度か秘書官とかに指示を出して、どうなっているんだとかとやった上で役所を仕切ったんです。

○質問者 わかりました。

○質問者 よろしいですか。

ここは鈴木副大臣から聞いたお話もございまして、3月16日の朝の協議の前に、福山副長官と鈴木副大臣がモニタリングをしっかりとやらんといかぬということを話されて、当時、枝野長官は非常にお忙しかったので、16日の朝の緊参チームの全体会合が始まる前に、何